

# こうのとりの通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会  
第4号(16) 平成26年2月20日発行  
(発行部数 500部)

発行責任者 岡田 浩子  
編集責任者 赤川 由美

神戸市中央区花隈町 9-25  
グラン・ピア下山手通 003

TEL : 078-362-1310

FAX : 078-362-2737

<http://hyogo-josanshikai.com/>

## ごあいさつ

一般社団法人 兵庫県助産師会

会長 岡田 浩子



会員の皆様には穏かで新しい年をお迎えのことと存じます。

平素は兵庫県助産師会の活動にご支援とご協力をいただきまして感謝申し上げます。

今年度の事業も皆様の協力により順調に進んでおります。6月、内閣府にて少子化緊急対策として「産後ケア事業」の方針が打ち出されました。それを受けて兵庫県医務課に兵庫県助産師会の「産後ケア事業」についての考え方と要望を提出いたしました。国からの予算は市町に交付されるとの報を受け各市町に「産後ケア事業」について予算化を要望いたしました。この「産後ケア事業」を兵庫県助産師会として大きく発展させていくために、今後の国の動きや市町の動きに注視していきたいと思っております。

(公社)日本助産師会通常総会・学会が平成26年度福岡県、平成27年度京都府にて開催されます。例年兵庫県からは代議員を含め10人前後の参加がありますが、もう少し多くの方に参加していただきたく思います。特に平成27年度の京都府での開催では本来福島県で開催予定のところ東日本大震災の影響により急遽、京都府に決まりました。兵庫県としまでも同じ近畿地区として最大の協力をしていきたいと思っております。皆様のご参加をお願いいたします。

昨年は豪雨による水害、竜巻など自然災害が多く発生し、被害をだしました。兵庫県助産師会でも災害対策マニュアルを作成し、今後どのように対処していくべきか検討しているところです。昨年、日本助産師会の要望にて会員の安否確認が行われました。平成26年度も実施予定です。

兵庫県助産師会も日本助産師会の動きを見ながら独自に活動していかなければなりません。各委員会にはそれぞれの担当理事がおります。委員会と協力して運営に齟齬のないようにしていきたいと思っております。理事会では平成26年度の事業計画の検討に入っていますが、財政の厳しい中どのように乗り切るか苦慮しています。また、本年は選挙の年です。選挙管理委員の下、兵庫県助産師会総会において決定されます。会員の皆様にもご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしますと共に、本年が幸多い年となりますよう努力し、会員の増加に希望を託して行きたいと思っております。

## 兵庫県助産師会からのお知らせ

- (一社)兵庫県助産師会 通常総会 平成26年5月17日(土) 場所:私学会館
- (公社)日本助産師会 通常総会・学会 平成26年5月22日(木)～24日(土) 開催地:福岡県
- (公社)日本助産師会 近畿地区研修会 平成26年11月14日(金)～15日(土) 場所:ピアザ淡海(滋賀県)



# 平成25年度 文化祭が開催されました

平成 25 年 11 月 3 日 (日) 文化の日、(一社)兵庫県助産師会 文化祭がラッセホールにて晴れやかに催されました。

## ～式典～

岡田浩子会長の挨拶の後に、1年間の叙勲等表彰者6名の紹介と花束贈呈が粛々と執り行われました。受賞者を代表して中山堇様より謝辞が述べられました。皆様の晴れやかな笑顔が輝いておられました。

その後、来賓祝辞を拝聴しました。兵庫県助産師会是一般社団法人として、今後、より一層、母子や家族へ寄り添う活動が期待されていると感じました。

## \* 来賓 \*

兵庫県健康福祉部健康局健康推進課長 西口 久代様  
 神戸市こども家庭局企画育成部母子保健課長 内野 栄子様  
 (公社)日本助産師会 専務理事 葛西 圭子様

## \* 表彰者花束贈呈 \*

高齢者叙勲 瑞宝単光章 山下 あや子様  
 厚生労働大臣賞および看護功績賞 中山 堇様  
 兵庫県健康財団会長賞 毛利 多恵子様  
 日本助産師会会長賞 および 石村 朱美様  
 日本家族計画協会会長賞 南田 理恵様  
 母子衛生研究会 母子保健奨励賞 上田 弓子様  
 母子保健推進会議会長賞

## ～特別講演～

「安全な出産への取り組み～助産業務ガイドライン改訂(案)を中心に～」というテーマで(公社)日本助産師会 専務理事 葛西圭子様による講演がありました。資料は20枚に及び、著名な医師及び助産師がたずさわり、大変な苦勞の末にガイドライン(案)が出来たことがひしひしと伝わり感銘いたしました。妊産婦管理適応リスト、正常分娩急変時のガイドライン(分娩期)(新生児期)など、具体的でわかりやすく勉強になると同時に、助産師としての責任の重さに身の引きしめる思いでした。

## ～懇親会～

産婦人科医会会長 大橋正伸様の乾杯の音頭で、和やかに幕が開きました。

会員によるプロ顔負けの余興が披露され、様々な演目を楽しみながら、食も会話も弾みました。和田さかゑ様による吟詠詩舞と歌では、矍鑠たる姿に感銘いたしました。

続いて、相馬栗子様、稲垣よしゑ様他3名による心温まるコーラスに癒されました。



受賞者の皆様



心温まる歌声に癒されました



素晴らしい踊りに感動の涙…





また、岡田会長はじめ他3名による寸劇では、赤ちゃん訪問での場面が演じられました。現代の母子を取り巻く問題・課題がひしひしと伝わってきました。カラオケもあり、諸先生方の魅力あふれる歌声にうっとりしました。

心地よく、心もお腹もいっぱいになり、大先輩の先生方のパワーももらい、明日からの助産師活動に活力をいただける一日になりました。来年の文化祭では、よりパワフルで元気な皆様にお会い出来ます事を心より楽しみにしています。

(文責 広報委員 岡村明美)



みなさんの熱演に 思わず笑みがこぼれました



一般社団法人 兵庫県助産師会 平成 25 年度文化祭

## 理事会報告

庶務担当理事 坂田 富貴子

今年度の事業は、研修会及び公益事業いずれも順調に進展しています。ホームページのリニューアル後、広報活動も充実し情報発信も充実してきました。おかげで研修会の広報と情報提供・地域における助産師の存在をPRし、助産師会の活動の「見える化」が図られてきました。また子育て・女性健康支援センターの活動では、電話相談事業とベビーマッサージを通して相談事業も地域に定着してきています。

公益事業では、相生第一交通のママサポートタクシーの導入にあたり、兵庫県助産師会は平成26年1月に講師を派遣し、妊産婦移送についての従業員教育を行いました。兵庫県下では、相生市において1月15日からサポートタクシーサービスが開始されています。また、性教育の講師依頼等も増え、地域の助産師に繋いでいます。

産後ケアセンター事業が市町村に予算化されることになったことから、当会では予算要望とともに産後ケア事業特別委員会を立ち上げ、専門部会や各地区への呼びかけを行いました。助産所部会と保健指導部会により、県内の市町宛に要望公文書・産後ケアのチラシを作成し、事業参加助産所(訪問含む)一覧等とともに



配信しました。地域での活動を行う上で、今後より一層、市町との連携は欠かせません。早期退院で育児不安を抱える母子に安全で安心したケアの提供ができる様な組織の構築が必要です。そのためには助産師のマンパワーが期待されます。人員確保と知識・技術面の研鑽を行い、助産師の存在を地域の母子及び家族に呼びかけていくことがその第一歩になると考えます。

助産所の安全管理を目指し、兵庫県助産師会独自ではあるが研修を受けた評価委員が助産所の評価を行う事を今年度から実施しています。上半期の事業状況・予算執行ともに順調であり、来年度に向け、ますますの組織の充実と産後ケア事業を含む公益事業を中心に事業計画を検討しています。選挙の年でもあり、会員の皆様にはご理解とご協力をお願いします。

## 部会・委員会より

### 〈助産所部会〉

助産所部会長 石村 朱美

11月から安全対策委員会と助産所部会選出の評価委員と共同での助産所安全管理評価が始まりました。昨年度は助産所部会員による相互評価でしたが、今年度は評価内容も刷新され、評価委員は安全対策委員会毛利理事による評価方法の研修会も受けて準備し、兵庫県内 15 の有床助産所に訪問しています。評価委員 2名で訪問していますので、より評価の信頼性は高くなります。この結果を踏まえて、各助産所の質を高めたいと思っています。

本部の開業基準に沿って地域に応じた兵庫県の開業（分娩を取り扱う）マニュアルを作成中です。これから開業される方の手助けになればと思っています。今年度は、助産所の新規開業の届けはありません。

産後ケア事業に関しては、三部会理事の指導のもと各自治体に働きかける努力をしています。マザークラスなどでは産後入所希望される方の声もちらほら聞くことがあり、これから取り組んでいく重要課題です。

今年度の4月から始まったITシステムによる分娩情報の入力について、各助産所の担当者からは慣れてきたと同時に不具合など具体的な意見や要望も出てきました。

### 〈保健指導部会〉

保健指導部会長 頓田 真子

今年度より定例会が毎月から隔月になり、あわただしく過ぎていく様に思います。回数が少なくなり何か抜けている事が多いのではないかと反省しています。

#### 活動報告

- ・地域で活動している人の顔入り写真付きマップを作成し、活用しています。
- ・部会定例会は、奇数月の第3土曜日10時から開催しています。
- ・部会後にミニ研修を入れています。開催時間は、11時30より1時間です。

〈部会開催月とミニ研修の内容〉

平成25年7月ヒヤリハット事例検討（講師：頓田）、

9月電話相談・接遇（講師：坂田）、11月新生児訪問のあり方について（講師：藪内）、

平成26年1月マタニティボックスを実行するに当たって（講師：中山）、3月ヒヤリハットについて





- ・子育て女性健康支援センター事業への協力をしています。電話相談、ベビーマッサージ、平和堂、子育てメッセ等多くの会員の協力により事業が進められています。新しく部会員の方々参加お待ちしております。
- ・産後ケア事業については、部会として考えを提出し、現在も活動中です。開業している人は、各自でも市町へ働きかけをしていきましょう。

#### 平成 26 年度の事業計画

次年度は、①隔月定例会の開催、②部会内研修、③子育て女性健康支援センターへの支援、④保健指導部会による研修の企画などを計画しています。保健指導部会が提出している研修案として、以下のものがあります。

- ・ベビーマッサージ講師養成講座 講師：坂田
- ・母子支援における保健指導～産後ケア地域母子支援について～ 講師未定

部会員の協力があり多くの事業が出来ています。地域の母親その他家族への支援につながっていると思い、力強く感じています。

## 〈勤務助産師部会〉

勤務助産師部会長 総毛 薫

新年明けましておめでとうございます。

過ぎた1年を思いめぐらし、新しい年に希望や期待をもってスタートされたのではないのでしょうか。公私ともに素敵な年であるように心からお祈りいたします。

平成 25 年度は、①勤務助産師部会の組織強化、②新人助産師および中堅助産師のキャリア発展、を目標に研修会を企画実施しスキルアップとともに、多くの会員の方に兵庫県助産師会を知っていただきたいと勤務部会の活動をしてきました。しかし研修会を受講される方が増えないことから、会員の方々が参加したいと思って頂ける研修とは何かを話し合ってきました。「他施設を見てみたい」、「職場で抱えている問題を他の施設はどう取り組んでおられるのか、意見を聞いてみたい」そんな素朴な臨床の声に答えることが大切なのではないかと考えるようになりました。

一度就職してしまえば、勤務部会員が他の施設を見学する機会はほとんどありません。日々の業務の中で疑問に思っていたこと、またどう取り組んでよいのか迷った事など、他施設ではどう工夫しておられるのか、施設やキャリアという枠組みをこえて助産師同士が成功体験、失敗体験を語り合い共有することができれば、今ある自分や周囲の仲間を力づけることができ、それぞれの施設でさらなる取り組みができるのではないかと考えます。

勤務助産師部会として、助産師力をアップしていくための「新しい研修のあり方」について取り組んでいきたいと考えています。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

### 実施していますか？健康診断

～福利厚生委員会からのお知らせ～

本部の安全管理基準にもありますように、年に1度は定期的な健康診断を実施し、従業員の健康管理を図ると共に自己管理ができるようにいたしましょう。





## 〈教育委員会〉

教育委員長 郷原 寛子

平成 25 年度、教育委員会では「助産師の実践力向上及び医療安全の確保」に関わる事業として、助産師のちからアップ研修、助産教育アドバンス研修、助産特定研修を企画し実施しました。

「助産師のちからアップ研修」には 10 研修を計画しました。参加方法として、全コースと単発コースを計画しましたが全コースの参加者は 18 名で単発コースの参加者と合わせてどの研修も 50 名を超える方が参加してくださいました。演習をともなった研修は参加者に満足していただくために人数制限をしましたのでキャンセル待ちの方が出ました。兵庫県内の方はもちろん県外の方も多く参加してくださいました。研修内容はホームページに掲載していますのでご覧ください。

平成 26 年度の計画もほぼできあがりしました。兵庫県内外のビッグな講師の方々にお越しいただく予定にしております。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

### ～助産師のちからアップ研修 受講者の声～

助産師だけではなく、医師それも産科や小児科、研究分野など、様々な講師の先生方より、貴重な講義を聴くことができました。新しい知識もたくさんあり、さっそく病棟に持ち帰って日々のケアに、少しずつですが生かすことができています。

こんな少ない人数で聞くのはもったいないのでは？という講義もありましたが、少人数なぶん先生との距離も近く、質問なども気軽にできてよかったです。

勤務の都合上、休みをもらわないといけなくて、仕事が忙しいときは研修はどうしても後回しになってしまいがちですが、初めにすべて申し込むことで参加しやすくなりますし、同じコースを受講した他施設の方のお話も聞けて、私も頑張らなければと励まされました。来年以降も、もしあれば興味のあるものに単発で参加してみたいです。

全コース受講者 Yさん



私は今回初めて助産師会の研修に参加させていただきました。日々の仕事に追われる中、一度立ち止まって勉強してみようと思ったからです。

助産師会の研修は、毎回本当に様々な講師の先生から、これまで知らなかったことを分かりやすく教えていただき、目から鱗でした！また研修を通して、他施設の助産師さんともお話しすることができ、学びになることが多かったです。

この学びを生かし、自分に出来ることをしていきたいです。ありがとうございました。

全コース受講者 Mさん





## 〈公益事業推進委員会〉

公益事業推進委員長 竹中 靖子

平成 25 年度兵庫県子育て元気アップ活動助成事業「助産師からのプレゼント～赤ちゃんとのふれあい・ベビーマッサージ～」を開催しました。

この事業は、①ベビーマッサージにより、母子の愛着形成および心身共に健康なからだづくりと信頼関係の構築を促す、②育児や授乳・栄養の相談を行うことにより、地域での助産師の役割や活動を展開する、というものです。今回はプレママ・パパにも参加を募り、妊娠中より間近に乳児と接する機会をつくり、プレパパも育児への参加を楽しめるように企画しました。神戸会場は 11 月 30 日に親子 10 組プレママ・パパ 2 組、明石会場は 12 月 1 日に親子 13 組、プレママ・パパ 1 組の参加がありました。明石会場では、第 2 回目として 2 月 2 日にも開催しました。

子育て・女性健康支援センター事業として、生田会館でのベビーマッサージ、平和堂育児相談、電話相談を引き続き行っていきます。平成 25 年 6 月より、3 か月ごと年 4 回の、赤ちゃん本舗マタニティ教室では、ご夫婦で参加して頂き、講習（パパの育児参加や産前・産後の留意点）や沐浴実習など、地域での活動を行っています。講師派遣事業では、性教育講師の依頼が 5 か所からありました。中学校 2 校、特別支援学校 1 校、大学祭 1 校、美容関係校 1 校です。会員皆様のご協力をいただいています。

## 〈ブロック活動について〉

ブロック担当理事 立山 サナミ

兵庫県助産師会が一般社団法人格を取得した平成 24 年度から 10 ブロックに組織されていますが、ブロックとしての活発な活動をするまでには至っていません。

各ブロック代表者は理事会の内容の伝達・報告を受け、その内容を会員へ伝達します。また、各ブロックからの意見や要望を理事会へ伝達するという役割を持っています。しかし、ブロック内の助産所部会・保健指導部会・勤務助産師部会の会員をまとめることにも苦勞している段階です。

平成 24 年度にはブロック内の地区代表者会議の経費しか予算化できませんでしたが、平成 25 年度から通信費として会員一人あたり 160 円の予算が付きましたので会員の状況把握ができる様になりました。しかし、十分ではありませんので、地区の会員が共同で県の子育て元気アップ事業の助成を受け、地域母子支援活動としてのベビーオイルマッサージを実施したり、助産師や助産師学生等を対象として研修会を開催したりして、地区の活動資金を僅かながらも得ている地区もあります。

平成 26 年度は、会長・理事・監事等の選挙の年ですから、ブロックとしての組織化が少しは強化されるのではないかと期待されます。

## 〈一般社団法人兵庫県助産師会役員選挙について〉



選挙管理委員長 梅澤路絵

一般社団法人兵庫県助産師会の第 2 回役員選挙となります。理事 5 名以上 10 名以内（会長、部会から各 1 名の理事、その他理事 6 名以内）、監事 2 名を選出します。3 月初旬に告示し、立候補を受け付けます。告示はホームページと部会長・ブロック代表への書面の郵送で行います。3 月末には立候補者名簿と投票用紙を配布し、郵送投票を計画しています。



特別企画！  
教育の現場から  
こんにちは

## 分娩介助演習に先輩助産師をお招きして

神戸市看護大学 助教 有本 梨花

実習に先立ち、実習指導者の方々を本学に招聘し、実習指導者による分娩介助の展開を学内の演習室で実施する演習をおこなっています。この演習の目的は①各施設において助産師が様々な分娩介助技術を培い展開していることを理解し、学生の助産技術に関する知識を深めること。②実習指導者から直接的に各施設の分娩介助について学ぶことです。学生達は現在習っている分娩介助の方法をベースに「このようなやり方もあるのだ」「なぜそのやり方をしているのか」と疑問を持ち、指導者の方にたくさん質問していました。施設によって分娩介助の方法が多少異なりながらも、母子が安全に娩出することができる分娩介助技術の原理原則は一緒であるということに気づけたという感想がみられました。また、実習先で初めて指導者に会うのではなく、実習前に指導者とお会いし、話すことで、少し緊張が解け、実習に臨むことができる様子でした。

本学の教員だけではなく、たくさんの先輩助産師から分娩介助技術を教わる事ができるこの演習は、自分達の分娩介助技術を探究するきっかけとなっています。



～演習の様子～ みんな真剣です

### 予防接種情報にご注意ください！

近年、予防接種の種類や接種回数の変更が頻繁に行われています。最新情報をご確認ください。

☆厚生労働省のホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/tp250330-2.html>

☆感染症エクスプレス@厚労省：<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/>

感染症に関する情報を直接かつ定期的にお届けするメールマガジンです。(無料)  
ぜひ、ご活用ください。

会員総数 334人 (平成26年1月31日現在)

新規会員募集中!! (まだ入会されていない方に入会をお勧めください)

〈編集後記〉 こうのとりの通信第4号がお手元に届く頃、皆様は春の訪れを感じておられることでしょうか。今回は、子育て・女性支援事業の展開や各部会や委員会、ブロック活動など、兵庫県助産師会の活動が活発に行われてきたことを紙面でお伝えすることができました。お忙しい中、寄稿していただきました方々に感謝するとともに、新しい年度も会員の皆様方が更にご活躍されることを願っております。 広報委員 神谷美紀子